



RDMに係る標準技術の 理解を深めるための取り組み

国立大学図書館協会資料委員会
オープンサイエンス小委員会タスクフォース
広島大学図書館 川村拓郎

第17回学術コミュニケーションセミナー（月刊JPCOAR）
研究データ管理事始め：Love Data Week 2023
2023年2月15日（水）

国立大学図書館のRDM支援力強化に向けて

国立大学図書館が各大学の研究データ管理・公開に実質的に貢献

(活動中間報告会) 月刊JPCOAR 令和5年2月15日(水) 14-16時

大学のポリシー策定を支援

策定段階等に応じた課題解決を促進

①研究データポリシー策定のためのワークショップ

令和4年11月28日(月)
所属機関のポリシー策定状況や課題を共有し、少人数で意見交換・課題解決

②RDM事例共有・意見交換会

令和5年1月30日(月)
AXIES・JPCOARの「研究データ管理事例集」から具体的な実践を紹介

RDM支援業務の設計と図書館職員による実践

図書館職員のスキル向上

RDM支援活動の事例分析と共有

海外先進大学にインタビューし国内に共有
・支援チームメンバーの専門分野や経歴は？
・支援チームに参加する図書館職員の役割は？
・支援業務に必要な知識やスキルは？
どうやって身に着けた？
・研究者から求められているもの・ことは？

インタビュー先(一部調整中)：ライデン大学、ノルウェー北極大学、ケンブリッジ大学、ワーゲンゲン大学
(京大・阪大・神大・奈女・奈教の各図書館による共同翻訳「データ管理で研究者と協力するために：クックブック」掲載事例から選定)

RDMのための標準技術の普及 RDA編「メタデータ標準カタログ」

日本語訳12月15日(木)公開
各学術分野ごとの、研究データ記述用標準メタデータの解説集。理系出身図書館員等が各分野ごとに日本語化を監修

研究データに適切なメタデータを付して国際流通性を高められるよう、研究者への助言・補助



NII RDC/GakuNin RDMについて知識がなく、画面を見たこともない職員向け

GakuNin RDMに触れてみる会

RDM支援業務の設計の参考のため、機能概要を把握
第1回 令和4年12月23日(金)

データジャーナルとはどんなものか南山さんに教えてもらう会

令和5年2月1日(水)

国立大学図書館協会 資料委員会 オープンサイエンス小委員会

(小委員会)

委員長：永盛克也(京都大学)

京都大学
大阪大学
神戸大学

富山大学
奈良女子大学
大阪教育大学

若手職員によるタスクフォース

東京大学
名古屋大学
京都大学
神戸大学

広島大学
国立民族学博物館

現役の理系出身図書館職員等による専門サポートグループ

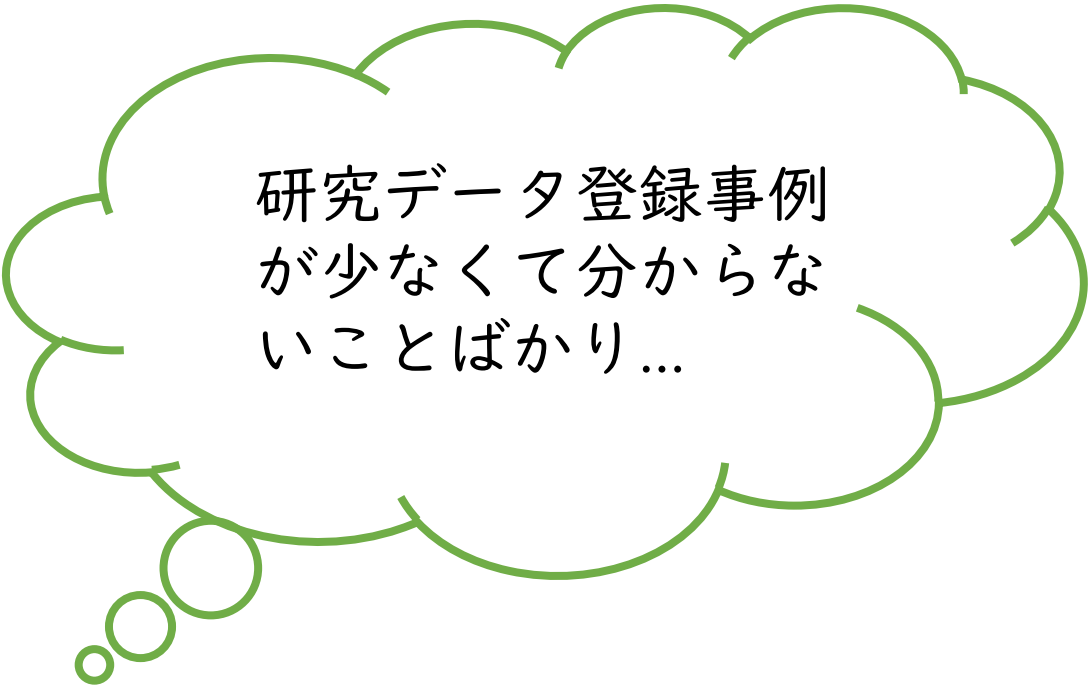
北海道大学
東北大学
東京大学
東京工業大学

富山大学
名古屋大学
奈良先端科学技術大学院大学
神戸大学

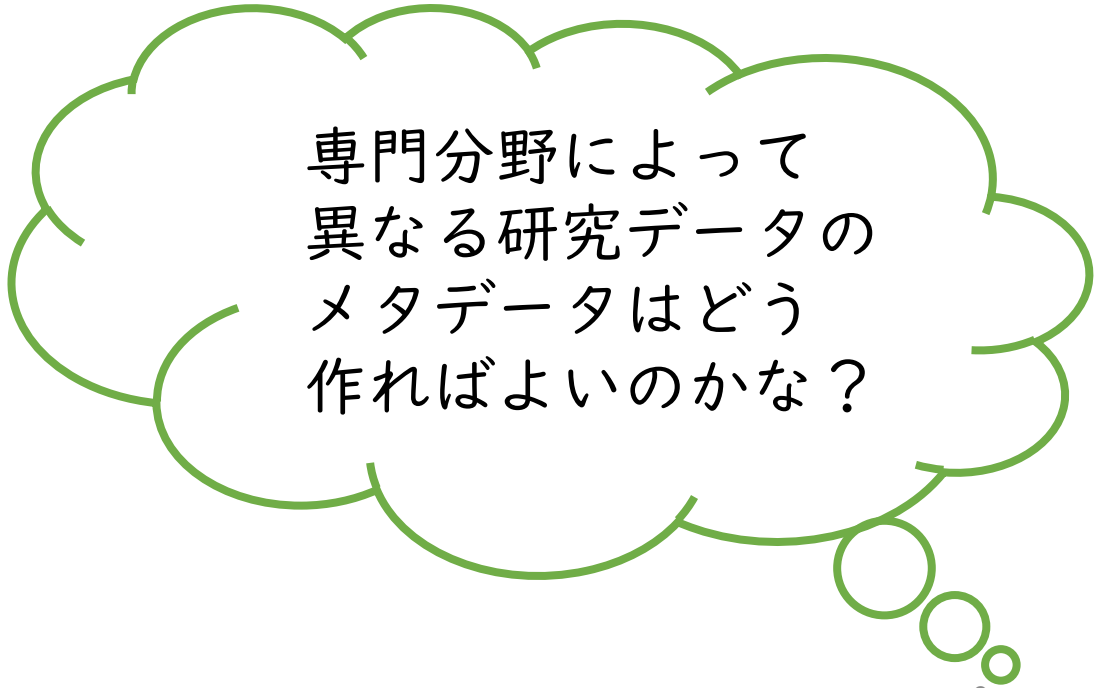
広島大学
愛媛大学
国立情報学研究所

背景

- 研究データ管理（RDM）や研究データの公開について相談を受ける・考えなければいけない場面が増えてくる
しかし、



研究データ登録事例
が少なくて分からな
いことばかり...



専門分野によって
異なる研究データの
メタデータはどう
作ればよいのかな？

2022年度 活動計画

活動

1. RDA Metadata Standards Catalogの日本語訳・公開

済

2. 各標準規約に準拠したメタデータ作成例を参考事例として共有できる仕組みを検討

途中

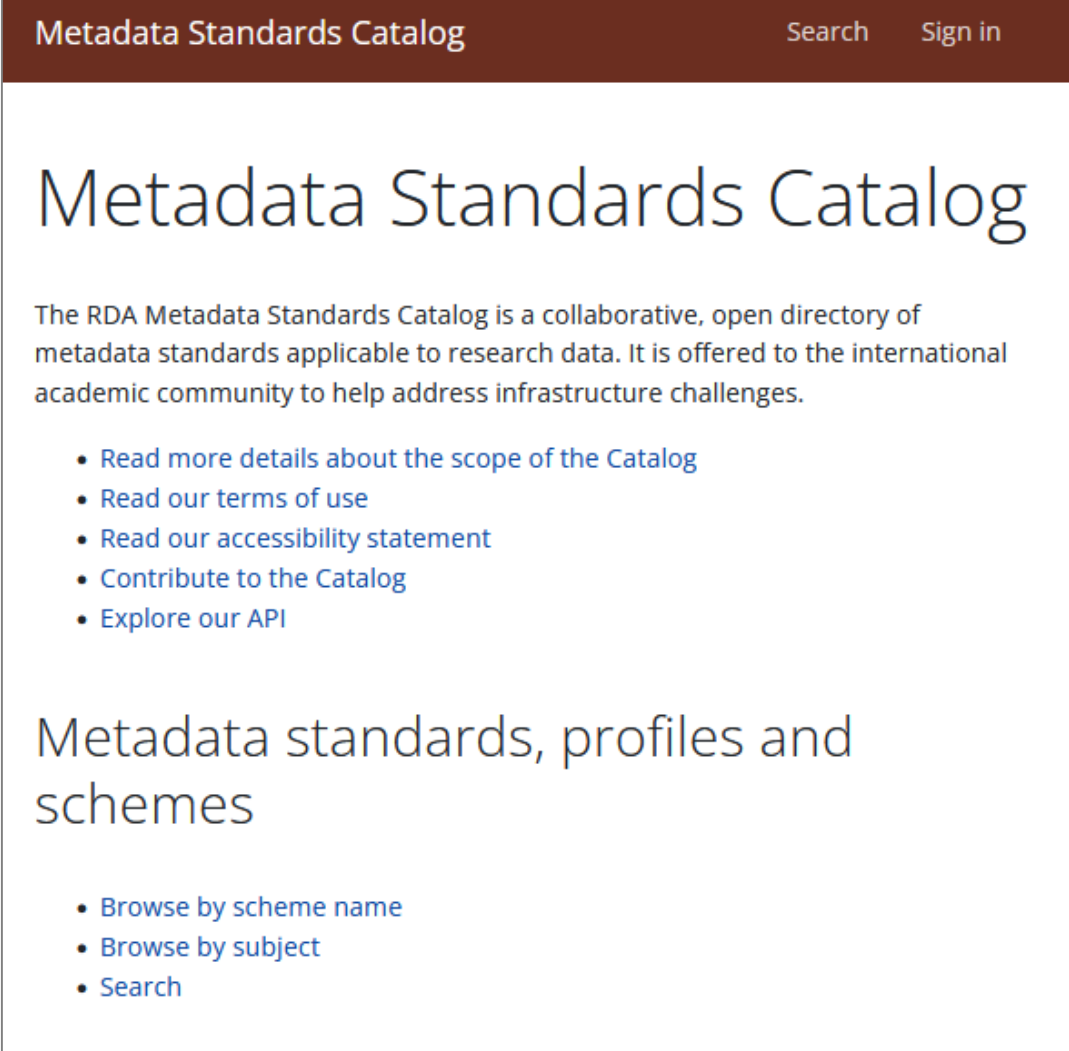


期待効果

適切なメタデータ付与，流通性の向上，
研究者への助言などの手助けに

Metadata Standards Catalog

- RDA(Research Data Alliance)のWGが開発・運営し,有志により更新されている各専門分野のメタデータ標準を紹介するWebサイト・システム

A screenshot of the Metadata Standards Catalog website. The header is dark red with the title 'Metadata Standards Catalog' and links for 'Search' and 'Sign in'. The main content area is white and features the title 'Metadata Standards Catalog' in a large font. Below the title is a paragraph describing the catalog as a collaborative, open directory of metadata standards for research data. A list of five links follows: 'Read more details about the scope of the Catalog', 'Read our terms of use', 'Read our accessibility statement', 'Contribute to the Catalog', and 'Explore our API'. Below this is another section titled 'Metadata standards, profiles and schemes' with three links: 'Browse by scheme name', 'Browse by subject', and 'Search'.

MSCの翻訳範囲

- MSCの説明のうち特に重要な部分
 - トップページ，カタログの範囲，利用規約
- 特に参照しそうな部分
 - 各メタデータスキーマの解説ページ
 - 各関連組織の解説ページ
 - 索引（メタデータスキーマ名，分野毎）

Metadata Standards Catalog

The RDA Metadata Standards Catalog is a collaborative, open directory of metadata standards applicable to research data. It is offered to the international academic community to help address infrastructure challenges.

- [Read more details about the scope of the Catalog](#)
- [Read our terms of use](#)
- [Read our accessibility statement](#)
- [Contribute to the Catalog](#)
- [Explore our API](#)

Metadata standards, profiles and schemes

- [Browse by scheme name](#)
- [Browse by subject](#)
- [Search](#)

Metadata-related entities

- [Browse mappings between schemes](#)
- [Browse metadata-related tools](#)
- [Browse organizations](#)
 - [Browse funders](#)
 - [Browse organizations that maintain schemes](#)
 - [Browse known users of schemes](#)
 - [Browse organizations that have endorsed schemes](#)

<https://rdamsc.bath.ac.uk/>

メタデータスキーマを一覧化する試み

2010頃

2013頃

2017頃-

メタデータスキーマ
等の一覧化の
取り組み

The Science Data Literacy
Project's, List of Metadata
Standards (2008)

Marine Metadata
Interoperability Project,
Content Standard References
(2008以前より)

BioSharing, Standards (2011)
(→FAIRsharing, Standards(2017))

DCC Disciplinary
Metadata

Digital Curation Centre, UK
2013

↓ 協力, もとデータ

Metadata
Standards
Directory

RDA Metadata Standards
Directory WG
2014

↗ 発展

**Metadata
Standards
Catalog**

RDA Metadata Standards
Catalog WG
2017

作業内容・スケジュール

-8月

- ・ 翻訳監修メンバー募集
 - ・ 理系専攻者を中心に※募集

※限定ではありません

9-10月

- ・ 翻訳箇所確定
- ・ 機械翻訳
 - ・ DeepL pro
- ・ 担当範囲の翻訳チェック
 - ・ 機械翻訳のチェック
 - ・ リンク切れ

11月

- ・ 全体調整
 - ・ 語句の統一
- ・ RDAのWGへ報告
 - ・ 内容はCC0のようだが

12月-

- ・ 公開（12/15）
- ・ 各機関における事例収集。共有化方策の検討

Disciplinary Metadata

While data curators, and increasingly researchers, know that good metadata is key for research data access and re-use, figuring out precisely what metadata to capture and how to capture it is a complex task. Fortunately, many academic disciplines have supported initiatives to formalise the metadata specifications the community deems to be required for data re-use. This page provides links to information about these disciplinary metadata standards, including profiles, tools to implement them, standards and use cases, and data repositories currently implementing them.

For those disciplines that have not yet settled on a metadata standard, and for those repositories that work with data across disciplines, the General Research Information for Animals (GRA) project has developed a metadata standard that have been used by a number of research data repositories.

Search by Discipline



出合え、理系図書館員！

杉田茂樹, “図書館にとってのCSTI報告書レビュー”, NII学術情報基盤オープンフォーラム, 2015.6.11



MSC日本語訳の公開

• 2022年12月15日 公開

研究データ流通のためのメタデータ標準日本語訳（資料委員会オープンサイエンス小委員会）を公開しました

資料委員会オープンサイエンス小委員会ではこのほど、RDAメタデータ標準カタログ（RDA Metadata Standards Catalog）の日本語訳を公開しました。

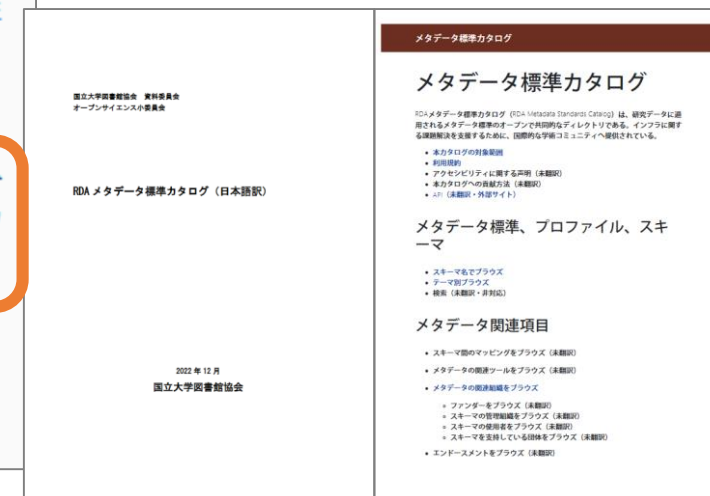
同カタログは、研究データに適用されるメタデータ標準を紹介するものであり、研究データ管理を推進する国際団体である研究データ連盟（Research Data Alliance）のMetadata Standards Catalog Working Groupにより運用されています。

日本語訳は大部ですが、全体をじっくり読んで理解するタイプの資料ではありません。研究データへのメタデータ付与に際し、該当分野の研究データ流通の共通規約の有無等を把握するためのインデックスとしてご活用ください。

各会員館職員の、より踏み込んだ研究者との協働の材料となれば幸いに存じます。

RDAメタデータ標準カタログ（日本語訳）

<https://www.janul.jp/ja/news/20221215>



MSC日本語訳を試みる

利用時のお願い

- 今回の翻訳物は2022年8月時点でのMSCの内容
 - だんだんと古くなっていく
 - 翻訳時点でも、最新情報を補足できていない箇所アリ

➡ 最新情報は必要に応じて別ソースでも確認を

- 「幅広い」スキーマなどが収録されている
 - 一般に想像されるメタデータスキーマより広い範囲が収録
 - 例) 収録されているDarwin Coreはどちらかというとデータ形式？

➡ 「対象範囲」 ページ確認やMSCの特性を認識して利用を

作業内容・ スケジュール

-8月

- ・ 翻訳監修メンバー募集
 - ・ 理系専攻者を中心に※募集

※限定ではありません

9-10月

- ・ 翻訳箇所確定
- ・ 機械翻訳
 - ・ DeepL pro
- ・ 担当範囲の翻訳チェック
 - ・ 機械翻訳のチェック
 - ・ リンク切れ

11月

- ・ 全体調整
 - ・ 語句の統一
- ・ RDAのWGへ報告
 - ・ 内容はCC0のようだが

12月-

- ・ 公開（12/15）
- ・ 各機関における事例収集。共有化方策の検討

事例共有の仕組み

- 具体的な方策は，まだ固まらず…
- カタログ使ったよコメントはいつでもお待ちしております！

“本カタログが少しでも役に立った場合は，ぜひ事務局まで情報をお寄せください（事務局連絡先：**janul-os-rdm@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp**）。活用事例として，担当者間で共有できるようにしたいと考えています。”

『RDA メタデータ標準カタログ(日本語訳)』まえがきより

まとめ

- RDA Metadata Standards Catalogの日本語訳を行い公開しました

<メンバー>

小委員会委員	鈴木 雅子（神戸大）	三木 保孝（大阪大）
タスクフォース （コアメンバー）	川村 拓郎（広島大） 直江 千寿子（名古屋大）	坂本 拓（国立民俗博物館） 端場 純子（名古屋大）
タスクフォース （翻訳ヘルプ メンバー）	石黒 敦子（東京大） 川村 拓郎（広島大） 佐藤 知生（神戸大） 下村 昌也（神戸大） 辻村 大樹（東京大） 中村 圭一（東京工業大） 端場 純子（名古屋大） 前田 隼（JPCOAR） 山形 知実（北海道大）	一色 剛（愛媛大） 木村 真帆子（東京大） 澁谷 あずさ（奈良先端大） 丹治 有沙（東京大） 中竹 聖也（東京大） 萩 誠一（名古屋大） 長谷川 啓史（東北大） 三角 太郎（富山大） 山本 紗矢香（東京工業大）

- 活用事例があれば、ぜひお知らせください！